

ふれあいボランティア活動 感想文集



平成 26 年度



特定非営利活動法人

さわやか青少年センター

ふれあいボランティアパスポート事業

平成二十六年度ふれあいボランティア活動感想文集 発行にあたって

さわやか青少年センターは、青少年一人ひとりの「生きる力」の根幹となる『人間力』（自ら意欲的に生きていこうとする「自助の力」とみんなで助け合って生きていこうとする「共助の力」）を、青少年が自ら育むよう支援する団体です。地域社会の中で行うふれあいボランティア活動（ボランティア活動の中でも人とふれあって行うことを特に重視したボランティア活動のこと。以下、活動という）は、青少年が『人間力』を育むに最適な取組みの一つであると考えています。当センターは、その活動を支援するツールとして「ふれあいボランティアパスポート」を学校や団体に提供しています。

「ふれあいボランティアパスポート（以下、ふれあいパスポートという）」は、児童生徒のボランティア活動のきっかけ（動機付け）や継続を支援するためのツールとして平成十二年に公益財団法人さわやか福祉財団において開発され、今日にいたるまで全国の小中高등학교、団体等で活用していただいています。（平成二十七年三月現在、一三五校・四団体、四万一千人以上の児童生徒が参加しています。巻末参照）

ふれあいボランティア感想文の募集は、児童、生徒が、この

パスポートを活用しながら、自分が取り組んだボランティア活動について感想文を書いて自らの活動を振り返ることにより、自分の心の変化や成長、他者との共助の楽しさ、内から湧き出る意欲に気づき、認める機会としていただきたい、という主旨で実施しております。

第三回目となる平成二十六年度は、これまでを上回る五三人の小中高校生のみなさんにご応募いただきました。

寄せられた感想文にある活動は、各地域ならではの活動も多く、さらに広がって多種多様になってきました。その活動に取り組む彼ら彼女らは、それぞれに自分の感性で課題を見つけ、独自に問題解決を図っています。この過程での気付き、ふれあい、驚き、工夫、喜びのひとつひとつが彼ら彼女らの人間力を豊かに成長させていると感じます。

今年度の選考委員は、昨年度に引き続き、「3年B組金八先生」などの脚本家である小山内美江子先生（選考委員長）、をはじめ四名の方にお願ひ致しました。（P1参照）

ここに入賞者十六名の感想文を掲載しています。この感想文集をお読みいただきました学校の先生、団体の指導者の皆様には、『人間力』を育む活動を奨励し、地域社会に向かって、子どもたちの背中を押していただくことをお願いしたいと思います。
平成二十七年三月一日

特定非営利活動法人さわやか青少年センター

理事長 有馬 正史

ふれあいボランティアアパスポート参加校リスト（巻末参照）

◎ ホームページにも参加校、感想文集をご紹介しています。
ダウンロードできます。（URL：<http://www.ssc-npo.or.jp>）

「ふれあいボランティア感想文」

応募総数 533点（小学校13校 2団体 365点、中学校9校
105点、高校6校 1団体 63点）

○受賞者

【ふれあいボランティア活動大賞】

東京都武蔵村山市立小中一貫校村山学園（中学校2年）

竹之内 あゆさん

【小学生賞】（7人）

青森県弘前市岩木児童センター（小学校1年）

鈴木 詩乃さん

福島県棚倉町立棚倉小学校 1年

高橋 愛生さん

千葉県栄町立布鎌小学校 2年

鳥屋 さくらさん

福岡県大牟田市立駛馬南小学校 3年

中村 はるかさん

千葉県栄町立安食台小学校 4年

君塚 弘菜さん

福島県棚倉町立棚倉小学校 6年

埴 葵さん

鹿児島県南九州市立中福良小学校 6年

江平 拓海さん

【中学生賞】（5人）

東京都小平市立花小金井南中学校 1年 阿部 燈子さん

千葉県栄町立栄東中学校 2年 大島 萌楓さん

東京都目黒区立第八中学校 2年 佐瀬 直之さん

静岡県袋井市立袋井南中学校 2年 澤野 ころさん

東京都世田谷区立駒留中学校 3年 遠藤 萌衣さん

【高校生賞】（3人）

NPO法人湘南ライフサポート・きずな 学習支援プログラム
きずなレッズ（高等学校 1年） 佐久間 沙紀さん

長野県立長野西高等学校（通信制） 1年 近藤 賢志さん

北海道帯広緑陽高等学校 2年 曾我 大聖さん

◆ふれあいボランティア感想文選考委員

選考委員長

認定JHP・学校をつくる会代表、

脚本家 小山内 美江子氏

選考委員

公益社団法人日本ファイランソロピィ協会

理事長 高橋 陽子氏

NPO法人放課後NPOアフタースクール

代表理事 平岩 国泰氏

日本教育新聞社

編集局局長 矢吹 正徳氏

後援

日本教育新聞社

◆ふれあいボランティア感想文選考委員長

ふれあい感想文より

認定NPO法人JHP・学校をつくる会代表、

脚本家 小山西 美江子

ボランティアは余り固く考える必要はありません。とは言っても、多くの生徒さんがはじめてボランティア活動に参加する時、誰もがとても緊張したと書いています。けれど、その緊張の壁をのり越えたからこそ、この度の、ふれあいボランティア活動感想文の募集に参加されたのだと思います。

ボランティアを特別にボランティアだと自覚せずに続けている生徒さん多いと思います。それはその人にとつて普通のことだと思っているからでしょう。けれど此処に作文を送つて来た生徒さんたちは、はじめての体験と感動を誰方かに伝えたいと思つて原稿用紙に向かわれていますね。読んで実にウイウイしく、また私たちも、その現場に居合わせたかと思つてほしつかりと書いていることに、ご自分が言つて思つているとおり、成長がみられて審査に当つた私たちに感動を与えてくれました。

日本全国の小、中、高校生が応募に参加された大勢の中から“大賞”の受賞者を選ぶのは本当に大変でした。それは、どの生徒さんも真剣にボランティア、そして感想文をまっ正

直に、ご自分のはじめての経験で得たものを“宝物”だと言っています。

なんて素敵なことでしょう。私たちのボランティアグループの合言葉は“出来ることからはじめよう”です。進学、そして受験の季節もやってくるでしょう。その時はどうしても受験勉強を優先させることになるでしょうが、それはそれ、“出来ることをやりましょう”

例え小さな行動でも、あなたは自然にお年寄りや幼児が人の手を借りたいと思つている時に出会えば、あなたはもう顔をそむけて行つてしまふ人ではありません。それを教えてくれたのはご両親であり、担任の先生、部活の上級生、そしてクラスメートと、御近所の方たちの絆だったと思います。

大賞、そして小、中、高の受賞者の皆さん、おめでとございます。また、選に洩れた大勢の生徒さんにも来年がある！と申しあげましょう。

◆選考委員

選考を終えて

公益社団法人日本ファイランソロピー協会

理事長 高橋 陽子

小学1年生から高校3年生までの作文は、本当に楽しく、そして頼もしく感じながら読ませていただきました。半面、これらに甲乙つけることは至難の業でした。年齢などの発達

段階、ボランティアの経験により、「成長」はさまざまです。そして、成長は、自分の中のものですから、たとえ未熟であっても稚拙であってもいずれも素晴らしいものです。

そして、誰もがいとおしく、そして後押しをしたくなるのはこちらの年のせいかと思いつつ、「もっと元気になるーれ！」という思いで選挙をした、というのが正直な心境です。

私の仕事は、社会の中の誰しもが、かけがえのない人として大切にされながら、社会にとって必要な存在となれるよう一人ひとりの社会参加を進めることです。即ち、今までボランティアや社会貢献に関心のなかった人たちが、自分ひとりが動いても、どうしようもない、と思ってしまうがちな人に、自分自身の可能性や、ボランティアの魅力・大切さを実感してもらおうことです。

カレーを食べることに惹かれて参加したり、いやいや参加していた人がいろんな出会いにより新たな気づきを得たことに、とても大きな喜びと期待を感じました。また、ボランティアは、活動そのものだけでなく、それが人の役に立っているかどうか、ということ、即ち、相手の視点に立っているかどうか、が大きなポイントになります。また、お母さんとボランティアについて話し合ったり、友だちとの協力や先生との関わりなど、人とのコミュニケーションも大事な視点だと思ひ、それらの点を考慮しながら選挙に当たりました。

この感想文プログラムは、参加した生徒・児童の皆さんだ

けでなく、これらの感想文を読んだ人にとって、新たな気づきや勇気づけ、そして、より力を出せるボランティアへの一歩につながる、という意味で素晴らしいものです。

選挙に当たらせていただいた事に感謝しつつ、これらのボランティアの輪が、より大きく、より温かく、そして強いものとして広がっていくことを期待しています。

「これからも人生にボランティアを」

NPO法人放課後NPOアフタースクール

代表理事 平岩 国泰

このたびのふれあいボランティア活動、大変お疲れ様でした。皆さんの作文を非常に頼もしく読ませていただきました。皆さんが色々と心の変化を感じながらそれでも自分から積極的に活動する姿にとても心温かくなりました。またそれぞれ世代でその年齢なりに自分が出れることをしていることにとても心打たれました。皆さんは今回の体験で、自分の知らない新しい世界が開かれたことかと思ひます。また、人々の絆を強く感じた方も多かつたことかと思ひます。この「新しいことへの挑戦」「人の絆の大切さの認識」は大人になつても大きな人生の喜びです。このことを今回のふれあいボランティアを通じて体験できたことは素晴らしい成果だと思ひます。ボランティアは私たち日常の生活のすぐそばに実現のチャンスがあります。また友人や家族などの手助けをする

ことも一種のボランティアです。ぜひこれからも無理のない範囲で少しずつでも続けていくことが出来るといいですね。一人ひとりが少しずつでも合わせればすごく大きな力になります。だから少しでもいいので続けていくことがとても大切だと思います。ボランティアはされるよりもする方が楽しいことを既に皆さんは実感されたと思います。これからの充実した人生にとってボランティアはなかなか素敵な心のサプリメントでもあります。ぜひ多くの方に喜んでいただき、皆様の幸せな人生が続いていくことを願っています。このたびは本当にお疲れ様でした。いつか皆様と一緒にボランティアが出来ることを楽しみにしております。

活動をきっかけに成長する姿に感動、感謝

日本教育新聞社 編集局局長 矢吹 正徳

小学生から高校生までが参加した「ふれあいボランティア活動」の感想文からは、ボランティア活動を通して、成長、変貌していく皆さんの姿が良く伝わってきました。

入賞者の皆さんには、おめでとうございました。参加された方々には、感想文を通して感動をいただき、感謝です。そして、全ての皆さんに「ありがとう」とお礼を言います。

今回の感想文を拝読させていただいて、年齢、学年を問わず、ボランティア活動が、活動した人の心、その周辺の人々の心に大きな影響を与えるということをつくづくと感じま

した。

例えば、学校でのゴミ拾いの体験が、家族とともに出かけた先での自主的な環境整備の行動につながっている活動がありました。その行動に周囲の人たちが「ありがとう」と感謝の声をかけてくれます。自分を見失う日常の中でボランティア活動に出会い、自分を立て直し、ボランティア部を創るまでになる生徒がいました。

地域活動を継続する中で、いつのまにかお互いの「顔」を知り、地域の中に「私」が在ることに気付く生徒もいます。社会は変わらないと思っていた「エコキヤップ」回収が、ただの「ゴミ」から「宝石」に変わったと気付くあなたがい

ます。

一つのボランティア活動をきっかけに、それぞれが勇気を持って一歩を踏み出していく皆さんの姿がよく見えました。これからも、こうした気持ちを保ち続け、小学生は中学生になって、中学生は高校生になって、高校生はその先の未来でのさらなる飛躍にも期待しています。

【ふれあいボランティア活動大賞】

ふれあいボランティアを通じて

東京都武蔵村山市立小中一貫校村山学園

(中学校2年) 竹之内 あゆ

ふれあいボランティアを通じて、私が疑問に思った事は、「人と触れ合う事で何が生まれるのか」です。

私は元々他人と関わる事が苦手で、どちらかと言うとボランティアなどの人と関わる活動はあまり自分から進んで参加しませんでした。

今回ふれあいボランティアに参加した理由は、苦手な事を徐々に無くしていこう、と思ったのと、自分を少し変えてみたい、と思ったからです。

私が参加したボランティアの中で、一番印象に残っているのは、高齢者在宅サービスセンターでのボランティアです。はじめは凄く緊張したし、失敗をしてしまうのではないかと不安だらけでしたが、センターの方や、一緒に参加していた友達が分からない事を優しく教えてくれたり、そこにいるおじいさんおばあさん達が明るく話しかけてくれたりして、数時間ですぐとけ込む事ができました。

三日間ボランティアをさせてもらい、感じた事は、たった三日間だけでとても親しくなれた事と、その分別れがとても

悲しかった事です。最終日の最後のお手伝いで、高齢者の方を帰りのバスの所まで連れて行っていった時、沢山の方に「三日間お疲れ様、お世話してくれてありがとう」と声をかけてもらい、思わず涙が出そうになりました。

ボランティアを終えて、私が疑問に思っていた「人と触れ合う事で何が生まれるのか。」その何かは、私は絆だと思いました。人と関わる事でその人の良さと個性が見え、それを理解して絆は生まれるのではないかと思いました。

私にとって今回のふれあいボランティアは、自分を改める良い機会になりました。

【小学生賞】

たのしかったいもん

青森県弘前市岩木児童センター(小学校1年) 鈴木 詩乃

わたしはボランティアクラブにはいって、いもんにいきました。したことは、うたとおてだまあそび、手あそび、よさこいのひろうとプレゼントをわたすことです。

さいしよは、うたをうたいました。うたは、「うえをむいであるこう」と「ゆうやけこやけ」、「むしのこえ」です。じどうセンターのゆみこせんせいからおしえてもらったのでじょうずにうたうことができました。

つぎは手あそびです。それからかたたきをしました。かたたきはおじいさんのかたをたたきました。おじいさん

のまえでたたいたり、うしろでたたいたりすると、きもちよさそうでした。

お手だまは、にこにこしているおばあさんとなりました。わたしがなげておばあさんの手にわたして、おばあさんもわたしの手にわたします。おばあさんはにこにこしていました。

よさこいは、じどうセンターのけいこせんせいからおしえてもらったので、かっこよくおどれました。

ふうせんパレーは、おじいさんやおばあさんのあいだに入っています。おじいさんおばあさんは、うれしいそうでした。わたしは、かいだけふうせんをおとししてしまいました。

「ごめん」というきもちになりました。

さいごはプレゼントをわたしました。三人のだいひょうにわたしがえらばれて、のこりの二人は二年せいでした。三人ともきんちようしていました。

おじいさんに

「はいどうぞ」

といたら



「ありがとう」

といってくれました。うれしかったです。

りんごジュースをもらいあるいてかえました。

わたしがいもんにいったことで、おじいさんとおばあさんがげんきになってよかったなあと、おもいました。またいきたいなあ。

はじめてのボランティア

福島県棚倉町立棚倉小学校1年 高橋 愛生

ふれあいボランティアパスポートを先生からわたされました。わたしは、はじめて「ボランティア」ということばをしりました。

先生は「ボランティアは、人のやくに立つことをすすんですることです。」とおしえてくれました。先生は、ゴミひろいもボランティアだといっていました。だから、わたしはゴミひろいをしようとおもいました。学校のゴミひろいからはじめました。

つぎの日、学校にいった、ろうかにおちているゴミをひろいました。たくさんひろいました。

そして、こんどは、まちのゴミをひろいました。まちの人に

「ゴミをひろってくれて、ありがとう。」

といわれて、とてもうれしかったです。

そのあと、えきにいきました。えきのゴミひろいをしました。おうちにかえるとき、じょうせきこうえんのゴミをひろいました。ゴミひろいをしていると、ゴミひろいがたのしくなってきました。

「かぞくでさいたまやよこはまにおでかけしたときも、どうるにおちているゴミをいっぱいひろいました。ゴミをひろうと、「ありがとう。」

とってほめてくれるので、うれしくなります。

これからも、学校やまちのゴミひろいをしたいです。ほかにも人のやくに立つことを見つけて、もつともつとボランティアをしていきたいです。

ボランティア活動

千葉県栄町立布鎌小学校2年 鳥屋 さくら

わたしは、二学期にいろいろなボランティアをしました。

一つ目に、おち葉はきをしました。朝のしたくがおわって朝の会までのあいている時間に、外におち葉はきにいきました。わたしはほうきで葉っぱをはきました。葉っぱが多くてたいへんだったけど、みんなとはいったのでたのしかったです。これからは、朝のしたくがおわって時間があるときにおち葉はきをしたいと思います。

二つ目は、教室にある本だなのやぶれた本を、テープでなおしました。雨で昼休みに外であそべないときには本を読み、

やぶれているところがあつたらテープできれいになおしました。本がきれいになって、いい気持ちになりました。これからは、本を読むときにはやぶれないように大切に本を読みたいと思います。そして、本がたおれていたり、ななめになつていたらすすんで本をせいりせいとんをしたいと思ひます。

わたしはボランティアをして、いい気持ちになりました。それは、ボランティアをしてきれいになるからです。わたしは、ボランティアのことが、はじめはよくわかりませんでした。だからお母さんに聞きました。お母さんは、

「ボランティアは、やさしい気持ちや、あいてを思いやる気持ち、ものを大切に作る気持ちがあればいつでもボランティアはできるよ。」

と言いました。それでわたしは、ボランティアをすることがすきになりました。

これからは、思いやりの気持ちを大切に、ボランティアをたくさんできるような人になりたいです。



ささえ合うまち、大牟田

福岡県大牟田市立駛馬南小学校3年 中村はるか

「おはようございます。」

げんかんであいさつをしました。今日は、駛馬地区公民館でにん知しよはいかい訓練がある日です。

まず会ぎ室でせつ明を聞きました。にん知しよ役の人は、黄色のタオルが目じるしです。探すグループには、わたしのおばあちゃんやおじいちゃん、大さかの人やお友達がいました。わたしは、

「がんばって見つけるぞ。」

と大きな声で言いました。

にん知しよというのには、お年よりがいろんなことがわからなくなる病気です。そこでにん知しよの人がどこに行つたか分からなくなつて歩いてるときにみんなですす訓練をしました。

わたしたちのグループは、

「どこにもいないね。」

「もう十分歩いたよ。」

「そうやね。」

とつかれた声で言いました。神田町や馬ごめ町を探しましたが、にん知しよ役の人はいません。でもしばらくして、「あつ、いた。」

わたしは大声でさげびました。黄色のタオルをかぶっていた

ので分かりました。

わたしはその人に

「大じようぶですか。」

と聞きました。同じグループの大さかの方は

「お茶でも飲みませんか。」

と、上手に話しかけられました。

でもにん知しよ役の人は、

「いいの、いいの、今はまだいいの。」

とおこつたふりをしました。わたしはにん知しよの人に分かつてもらうのはむずかしいなと思いました。

もぎ訓練のあとみんなでだんごじるとおにぎりを食べました。

たくさん歩いてつかれたけれど、地いきの人がみんなですさえ合うことは、大切だと学びました。わたしは、これからも進んで地いきの活動にさんかしたいと思います。

笑顔はみんなを笑顔にできる

千葉県栄町立安食台小学校4年 君塚 弘菜

「安食台小の四年生が来たよ。」

私は、ケアセンターで働いている人が、やさしい笑顔でお年よりに話しかけているところを見ました。お年よりも、言葉をかえすように、にこにこした笑顔になっていました。私は、この笑顔を見て、この人はお年よりをこんなにも、笑顔

にできるなんて、きつとふつうの人には、できないと思いましたが。

私たちが、音読げきをしていた時、お年よりは少し笑顔になつてくれました。でも、さつき見た、笑顔とくらべるとまだまだでした。音読げきが終わる時、たくさんのはく手をつくられたけど、やつぱりにこにこした笑顔ではありませんでした。

私は終わった後、どうすればお年よりが、とても楽しく、笑顔になれる気分になるかを考えました。その時、頭にさつきお年よりに話しかけていた人がうかびました。私は、自分が笑顔になれば、お年よりも、笑顔になるかもしれないと思いました。

次にする、福笑いは、やさしい笑顔でやろうと思いました。福笑いをやり始めて、私は、笑顔になると、だんだん、お年よりは笑顔になりました。私はとてもうれしかったです。

最後、一人一人とあく手をしてしていると一人のお年よりがこんな言葉をかけてくれました。

「今日はとても楽しかったよ。お勉強がんばってね。また来てね。」

この言葉をかけられた時、私たちは、ケアセンターに来てお年よりを笑顔にできたから、来た意味があつたんだなと思えました。

このようなお年よりの交流を通して、私たちが笑顔になれば相手も笑顔になるとわかりました。これから、私は、人

のためになれるようにどんな時でも笑顔になろうと思いました。そして、私は、このようなことに気づけることができました。自分はまた一つ、成長したからだと思えました。このような、経験をこれから、生かせればいいと思います。

ボランティアを通して思うこと

福島県棚倉町立棚倉小学校6年 塙 葵

ボランティアバスポートは去年も取り組みました。今年もこの活動に取り組みました。「毎年、同じ事をしてもつまらない。どうせ取り組むなら、去年とは違う事をした方が絶対にいい。」と、私は思い、今年とは去年とは違う事にも挑戦しました。

毎年、ゴミ拾い、募金活動などには協力していました。しかし、学校で一年中行われていて、誰もが協力することができ活動には、あまり協力していませんでした。それは、ペットボトルのキャップを回収する活動です。

私はこの活動の事を思い出し、まずは、家でキャップを集める事から始めました。家族にも協力してもらい、箱を設置しました。意外にもペットボトルのキャップは早くたまり、あつというまに設置した箱の三個分ぐらいが



たまりました。このキャップは、発展途上国の子供たちのワクチンになります。

プラスチックでできたただのキャップが命を救う事ができるのはすごい事だと思います。「たかがキャップ。いいえ、されどキャップ」だと私は実感しました。

今回私が新たに作り組んだボランティアは、もつと広める必要があると思います。この活動を私が見た事があるのは、私の学校とある病院だけです。もつとたくさんの公共施設にペットボトルのキャップ回収ボックスを設けて、一つでも多くキャップを集めれば、発展途上国の子供たちを救う、すばらしいボランティアになると、私は思います。

去年までの私はボランティアは「小さい事しかできない」と思っていました。しかし、今年のボランティアは、命を救う、大きな事だったと思います。これからも、このようなボランティア活動を見つけて、行っていこうと思います。

「自分から」の大切さ

鹿児島県南九州市立中福良小学校 6年 江平 拓海

「ああ、ここにもあった。」

そうさげぶと、みんないつせいにかけ寄った。毎年行っているボランティア活動は、今年で六回目になる。今日は、全校で行うボランティア活動の日だ。ぼくたちの班は、道路のごみ拾い。本当のボランティアは、「自分から」だと言い聞

かせながら、ぼくはあまり自分から進んでできていない。リーダーとなったぼくは、みんなをまとめる役目である。

さっそく道路に出ると、空きかんやおかしのふくろ、プラスチックの破片、なかにはたばこの吸い殻もある。明らかに大人によるごみだ。ぼくは何だか複雑な気もちになった。大人の「ごみは持ち帰りましょう」という言葉もごみ捨てを禁止する看板も悲しく思える。拾いもしないごみをぼくたちの住む町に捨ててほしくない。すぐにポイントと捨てる人は、たばこを吸う資格はないと思う。

この現状を目の当たりにしてから、ボランティアの「自分から」の意味が分かってきたように感じた。

この町は、町がきれいになった気がして、気持ちがあすきりした。そう、ボランティアには、された側だけでなくそれをした自分もすっきりすることができる活動なのだ。自分からこの気持ちでごみ拾いをすれば、もつと楽しいだろうと思う。そしてみんなが拾えばやる気も出る。

そう思いながら、複雑な気持ちが残る。それはわたしたち一人一人がごみを捨てないという気持ちをもてば、ごみ拾いなどしなくてもいいということだ。しかしここで、「自分から」の意味を考えてみた。ぼくたちが自分



で考え、行動することで、周りの人の気持ちを变えることができるのではないかといいふることだ。ぼくたちが先に行動して、自分の住む町をよりよいふるさとに変えていくことができるようにがんばりたい。

【中学生賞】

ふれあいボランティア活動を通じての私の成長

東京都小平市立花小金井南中学校1年 阿部 燈子

私は、今年の夏休みに、二つのボランティアを体験しました。一つは保育園。もう一つは老人ホームです。どちらも、3日間活動させてもらいました。その中でも特に、長い時間お世話になった、ひめゆり保育園では、ボランティアをしたからこそわかる、喜びや楽しさ、苦勞、不安などの多くを感じる事ができました。

初めて保育園に顔を出したとき、これからの出来事に対する気持ちと知り合いのいないことへの不安でいっぱいでした。一歩進むたびに、心臓の音が大きくなっていききました。そんな気持ちの中、担当のクラスに行き、自己紹介をしました。このクラスは一歳児十五人ほどで、みんな、思い思いに遊んでいます。

不安な気持ちをぐっとおしこめ、近くで私を見ている男の子に話しかけてみました。が、返ってくるのは、まだおぼつかない声。それでも、必死に話そうとしている子の気持ちが

知りたく、私も必死に話しかけました。

そのうち、すっかりとした「言葉」では会話していかないけれど「心」で会話をしているような気がしました。表情、行動、声だけでも、十分気持ちがわかり合えた気がしました。その子の笑顔を見ると、不安なんてすっかり忘れ、心を通じるたびに、喜びが感じられました。

私は、その子との間で学んだことがあります。それは、コミュニケーションは言葉だけではないということです。そして、人の笑顔は、他の人の不安も取り除くことができるというこども感じました。

もちろん、楽しいだけではなく、水遊びの時、危険がないよう目を配ったり責任をもたねばならないところも多いです。けれど、子どもたちの笑顔で、疲れもふつとぶ思いでした。最後の日は、全員が名前を覚えてくれ、すぐくうれしかったです。

このボランティアを通して、人の心を見ることの大切さ、すごさを感じられました。ボランティアを通し、色々な人のつながりを深めていきたいと思えます。

ボランティア活動を通じての私の成長

千葉県栄町立栄東中学校2年 大島 萌楓

ボランティア、「無償で奉仕すること。」奉仕、「一人につくすこと。」

小学校四年の夏。毎年老人ホームで行われる夏祭り。四時三十分開始の祭りだが、私は一時間早い三時三十分に着いた。それは、おじいさん、おばあさんと話しをするため。皆は、「何もないから行かない。」
「楽しくないし。」

という。私はいつも疑問に思った。話しが終わると、おじいさん、おばあさんは、笑顔で

「とても楽しかったわ。ありがとう。」
と言って下さる。私はその言葉が嬉しくて、心に明るい花が咲く。

今、中学生の私は、祭りでの老人ホーム訪問はもちろん、一ヶ月に一回行われる公園清掃に参加しています。近所がきれいであつたら、心がとても清々しい、そしてなにより、近所の人と交流ができる。素晴らしいではないか。

「おはよう。お？少し身長伸びたね。」
私の小さな成長に気付いてくれる人がいる。青空の下、ボランティアが終わったあとは気持ちいい。

ボランティアを通じて私の何かが変わった。
「めんどくさい」

など言ってる人は沢山いるだろう。一回、ボランティアをしてみよう。清々しい気持ち、嬉しい気持ち。心に明るい花が咲くだろう。

ボランティア、「無償で奉仕すること。」奉仕、「人につく

すこと。」

ボランティアという名の種をまき、感謝という名の水を上げ、心に明るい花が、みんなの中に咲き続けることを願います。

三度目のトイレの掃除

東京都目黒区立第八中学校2年 佐瀬 直之

僕はふれあいボランティアの活動を色々やってきましたが、今年度特に印象に残った、「トイレ掃除」について、自分が成長したと思うことを書こうと思います。

これは、一年に一度、学校のトイレを班ごとに分かれてきれいに掃除するというものです。今まで二度経験した僕にとって、このトイレ掃除はとても楽しみなものでした。なぜなら、掃除が終わった後にふるまわれるカレーがとてもおいしいからです。今年もトイレ掃除がやってくると、わくわくしながら当日を迎えました。

当日、班が発表され、僕の掃除場所は女子トイレでした。班の方々はまったく知らない人で緊張しました。

さて、あいさつを終え、便器と向いあつたとき、二度経験したとはいえ抵抗感がありました。でも、頼れる班のリーダーが「勇気を出して、手を突っ込めば、そこから先は楽しいよ!」と言ってくれたので、勇気を出し、班の方々とおしゃべりをしたり、笑ったりしながら、楽しく、掃除を終えまし

た。

その後、リーダーが「君が一番頑張ったね。君が今日、一番成長したよ。」と言って下さいました。その時はとてもうれしくて、やってよかったなと思いました。その後もおいしく、班の方々とおしゃべりしながら過ごし、とても充実した一日でした。

最後に、僕は、一生懸命に物事を行い、それを成し終えた時の達成感と喜びについて学びました。勉強や部活も、つらいな、めんどくさいなと思っても、やれる、できると思っただけ前向きに取り組んでいきたいと思いました。

トイレ掃除ボランティアについて書きましたが、落ち葉はきや地域のお祭にも積極的に参加しました。ボランティア活動に参加する度に一回り大きく成長したことを感じます。これから頑張りたいと思います。

宝石

静岡県袋井市立袋井南中学校2年 澤野 ころこ

私がボランティアと真剣に向きあったのは十一月のことです。それまでは学校で募集していても自分が参加してもあまり変わらないと思いつながらなんとなく参加しているだけでした。



福祉委員長になり私の考えが変わっていききました。私たちの学校では月に一度三日間、朝昇降口でエコキャップを回収しています。集めたエコキャップは学年ごと重さを計り、その後ワクチンに変えるため団体へ送ります。呼びかけをすると呼びかけをしてくれる人が増え、ボックスにたまっていくキャップを見ると、とてもやりがいを感じます。また一つだけ持つてきてくれる人もいます。家にたくさんなくても参加しようとする気持ちがとても嬉しいです。委員長になり一番接し、呼びかけをしている私の学年が一番多く集まります。だからこれからは他学年の参加人数も増やしていきたいです。

今まではただの「ごみ」だと思っていたキャップも今では「宝石」のように感じます。みんなの気持ちがつまったボックスに集まるキャップの一つ一つがキラキラと光り輝いてみえます。考えると部活動の大会に出られるのは陰で多くの人がボランティアとして働いてくれているからです。部活動ができるのも学校に通えるのも元気でいられるのも生きていくのも・・・すべて、人の支えがあるからできることです。それに気づくことができたのもボランティアのおかげです。ボランティアがボランティアを私に教え、心を育ててくれました。

そんなすばらしいものにこれからもたくさん参加し、人助けをしていきたいです。そしてキラキラと光り輝く「宝石」をこれからもずっと集めていきます。

地域の一人として

東京都世田谷区立駒留中学校3年 遠藤 萌衣

中学の三年間、同じボランティアを継続して行うことが私のひとつの目標でした。なかでも特に頑張ってきたのは、地域のドッジボール大会の手伝いです。この活動は会場準備やコートへのライン引き・特典の記録などの手伝いが主な内容となっているほか、地域小学生との交流という目的があります。今年この活動を改めて振りかえって、三年間で自分が成長したところは2つです。

一つ目は仕事を覚えたことです。一年生のときは仕事の流れがわからず、戸惑うばかりであり役に立てませんでした。しかし今年は何をすればよいのか分かる自分になりました。会の進行や試合の方法・観戦する際のルールなどを把握し、小学生に適切な指示ができたことは大きな自信につながりました。

二つ目は、地域の小学生と顔なじみになったことです。ボランティアの前日、通学路を歩いていると、小学生に「今年も手伝いに来る？」

と声をかけられました。地域で活動することで「私」という人間を地域の馴染みの中学生として認識してくれているのだと強く実感しました。また、大会中には小学生だけでなく、青少年委員の方や地区委員の方など、多くの地域の方に声をかけて頂きました。このことから、地域に継続して関わるこ

とは年齢を問わない地域の繋がりを作るうえで、非常に大切な役割を果たしているのだということ学びました。

一年生でこの活動に参加して以来、地域の方に声をかけて頂く機会が増えました。地域の方が応援して下さいながら、このボランティアを特に頑張ったのだと思います。中学校を卒業しても、地域を担う一員として培ってきた繋がりを大切に、生きていきたいと思えます。

【高校生賞】

学習支援ボランティア

NPO法人湘南ライフサポート・きずな学習支援プログラム
きずなレッジ(高等学校1年)

佐久間 沙紀

私は今、高校一年生です。普通に学習生活を過ごしています。

こんな私は中学生の頃、面倒な家庭環境や転校などがあり不登校になっていました。勉強も追いついて行けずに不安に思っていました。そんな中、高校受験三ヶ月前、市役所の勧めできずなレッジの学習支援を知り、通うようになり、基本から教えてもらって受験合格できました。

お菓子を食べ、お茶を飲んで休憩して、みんなで笑って、まるで勉強会みたいで、「真面目でルールばかり」と思ってきた私に、勉強もやり方次第なんだよって教えてくれた気がしました。

受験合格して、部活に入り授業を受けて、普通の学生になって、でもそれが普通だとしても、私には涙が出る程嬉しい今と一緒に造ってくれたきずなレτζジの先生やみんなにとっても感謝しています。

勉強が身になる事が、私には初めての世界だったし、そう思うたびにともっともつと頑張ろうと思えたのは、力になってくれた先生方や何気なく笑っている子供達だって私の支えになってくれていたんだと思います。

私は高校に入ってから学習支援に向かっています。今年受験生が集まってきている中、ある車イスの女の子に高校への不安などを相談されました。私は本当の高校の姿「楽しくて新しい事が沢山」と言いました。その子は私と同じ高校を志望してくれ、その子の考え方に私が受けた沢山の事を繋げられた気がして、力になれたのだと実感しました。

私と同じように、沢山の事情がある子供達、そういった子供達を支え学習支援への恩返しをしたいのと、それとともに私も成長していきたいと思っています。



勇気もたらした私の成長

長野県立長野西高等学校1年 近藤 賢志

中学時代の私は、居場所を求めて生きるのに必死だった。しかし、徐々に居場所が遠のき、アイデンティティを失ったその延長線上で私は、高校一年の梅雨時に鬱病を患った。絶望の中、先生が長野西高校通信制を紹介してくれた。私は弱い自分を変えたい一心で編入した。学校生活が安定し始めた頃、サマーチャレンジボランティアを知った。私はボランティアの知識は皆無だったが、ボランティアを学ぼうとする向上心が湧き、ボランティア活動に参加した。

高齢者と触れ合いたいと思い、介護施設を訪れた。二日目の慣れ始めた頃、脳に障がいをもった六十代の男性が一人でいた。話し掛けるか迷っていると、施設の所長さんが私の背中を押してくれた。“よろしく頼んだ”と、太い一声に勇気が泉のように湧き、真心込めてコミュニケーションをはかった。折り紙を丁寧に教えていると、その男性は折り紙を手で掴み、折り始めた。真心があれば、障がい関係なく気持ち伝わることに感動した。私は所長さんに今も感謝して忘れたい。

私はこの経験からボランティア活動を通して、様々な世代の人と話し合いたいと思うようになった。

現在、高校生ボランティア団体に入り活動している。同年代の人々との交流も私の今までの引込み思案という性格

を変えていった。その根本要因に相互扶助がある。私は、ボランティア活動を通して真心で多くの人と接したいと思う高校にボランティア部を結成する決意をした。決意から二ヶ月後に先生方と生徒達に認めて頂きボランティア部が結成した。

私の成長は、病気が原点である。ボランティア活動が、「私と他人」という見えざる壁を打破した。私はこれからも勇気を出して多くのボランティア活動をする中で成長していきたい。

僕が学び成長したこと

北海道帯広緑陽高等学校2年 曾我 大聖

僕は保育士を目指しています。その上で、保育ボランティアは自分にとって、とても良い経験になると思い、参加しました。

僕は子供が大好きです。中学生の時には、自主的に自分が通っていた保育園にお手伝いに行ったりもしており、ボランティアは少しも苦には感じることはない、寧ろ胸が躍るような体験でした。

ボランティアの活動内容は、僕と一緒に参加したメンバー達を終始笑顔にする程の明るさや、温かさのあるものでとても充実しました。朝九時から園児たちとお遊戯などをしたり、絵本の読み聞かせやおもちゃで遊んだりもしました。園児た

ちは、どんな遊びにも全力で楽しんでる様子で、子どもらしく可愛いなと感じるとともに、着替えやトイレなど自分で出来ることが僕が想像していたよりも多く見られ、子供たちの早くも自立している部分に驚き、また感心しました。

そんな子供たちからや、ボランティアを通じて学んだことがいくつかあります。

一つ目は「愛情」です。自分よりも小さな存在に囲まれ、時々目にする純粹な笑顔に、愛しさや守りたいなどの気持ち芽ばえ、人に対する愛情を学びました。

そしてもう一つ、周りを見る視野と気配りです。何をしていいのか、子供たちには危険はないか見る視野と、活動中に手が空いたときなどには積極的に手伝えることはないか探したり、先生に聞いたりする気配りを身につけました。お礼の言葉や「毎週来てほしい。」など嬉しい言葉を貰うこともあり、どちらも大切で身に付けておくと良いことだと改めて感じました。

僕は、ボランティアから「愛情」や周りを見る視野、気配りなど社会に出ても役に立つ大切なことを学び、一歩大人な自分に成長したと感じました。



平成26年度ふれあいボランティアパスポート参加校(平成27年3月現在)
参加児童・生徒数41,028人 **FVP申込数47,325冊**

北海道	1	NPOまち工房・元氣!
	2	○函館市立東山小学校
	3	○北海道帯広藤岡高等学校
青森県	4	▲前市市若木児童センター(社会福祉法人真会)
岩手県	5	盛岡市立月が丘小学校
宮城県	6	盛岡市立藤川中学校PTA
秋田県	7	仙台市立七北田小学校
山形県	8	秋田県立秋田西高等学校
	9	山形県青年の郷 新庄市立新庄中学校
福島県	10	山形県立山辺高等学校
	11	福島県教育委員会 棚倉町立近津小学校
	12	棚倉町立社川小学校
	13	棚倉町立高野小学校
	14	棚倉町立棚倉小学校
	15	棚倉町立山岡小学校
	16	棚倉町立棚倉中学校
茨城県	17	水戸市立河和田小学校
	18	阿見町立阿見小学校
	19	茨城県立藤ヶ浦養学校
埼玉県	20	○春日市立豊春中学校
千葉県	21	鎌倉市立中央中学校
	22	白岡町立藤津中学校
	23	栄町社会福祉協議会 栄町立安食小学校
	24	栄町立北辺田小学校
	25	栄町立酒直小学校
	26	栄町立布織小学校
	27	栄町立安食台小学校
	28	栄町立竜角寺台小学校
	29	栄町立栄中学校
	30	栄町立栄堂中学校
	31	市原市立青葉台小学校
東京都	32	港区立青山中学校
	33	○文京区立第八中学校
	34	品川区立小中一貫校日野学園
	35	品川区立錦ヶ森中学校
	36	品川区立荏原第五中学校
	37	目黒区立中目黒小学校
	38	目黒区立上目黒小学校
	39	目黒区立第八中学校
	40	目黒区立目黒中央中学校
	41	世田谷区立駒留中学校
	42	杉並区立杉並第一小学校
	43	杉並区立松庵小学校
	44	豊島区立千早小学校
	45	板橋区立中台小学校
	46	板橋区立天津わかしお学校
	47	練馬区立光が丘第四中学校
	48	八王子市立第五中学校
	49	八王子市立宮上中学校
	50	昭島市立つっじヶ丘南小学校
	51	町田市立三輪小学校
	52	小平市立小平第六小学校
	53	小平市立小平第七小学校
	54	小平市立小平第八小学校
	55	小平市立小平第十四小学校
	56	小平市立学園東小学校
	57	小平市立花小金井南中学校
	58	国分寺市立第七小学校
	59	東大和市立第三中学校
	60	武蔵村山市立第一中学校
	61	武蔵村山市立小中一貫校村山学園
	62	多摩市立豊ヶ丘小学校
	63	東京都立芝商業高等学校
	64	東京都立声花高等学校
	65	東京都立練馬高等学校
	66	東京都立東久留米総合高等学校
	67	横浜市立新井中学校
	68	横浜市立岡村小学校
	69	横浜市立日根山小学校
	70	○茅ヶ崎市立松浪中学校
	71	鎌川町立鎌川中学校
	72	横浜創英高等学校
	73	○ガールスカウト神奈川県 第3団
	74	NPO法人湘南ライフサポート・きずな学習支援プログラムきずなレッジ

新潟県	75	○柏崎市立第二中学校
長野県	76	○長野県長野西高等学校(通信制)
	77	岐阜市立青山中学校
	78	○岡市立金竜小学校
岐阜県	79	○岡市立小金田中学校
	80	シナノ町 岡市立武儀東小学校
	81	タビ市 岡市立武儀西小学校
	82	1セキ 岡市立武儀中学校
静岡県	83	袋井市立袋井南中学校
愛知県	84	一宮市立葉栗中学校
	85	一宮市立尾西第二中学校
	86	豊知県立香和高等学校
高知県	87	高知市立一宮小学校
	88	高知県立高知真高等学校
山口県	89	○山口市立湯田中学校
福岡県	90	市小 小都市立味坂小学校
	91	小民部 小都市立徳原小学校
	92	余市 小都市立三国小学校
	93	鎌青 小都市立東野小学校
	94	少年 小都市立のぞみが丘小学校
	95	年 小都市立宝城中学校
	96	青 小都市立大原中学校
	97	成 小都市立小郡中学校
	98	小郡市立三国中学校
	99	福岡県立三井高等学校(福祉教養コース)
	100	大牟田市立駿馬南小学校
101	大牟田市立駿馬北小学校	
102	大牟田市立天の原小学校	
103	大牟田市立大牟田小学校	
104	大牟田市立大正小学校	
105	大牟田市立高取小学校	
106	大牟田市立三池小学校	
107	大牟田市立羽山台小学校	
108	大牟田市立吉野小学校	
109	大牟田市立倉永小学校	
110	大牟田市立藤中学校	
111	福岡県立ありあけ新世高等学校	
112	伊万里市立南波多小学校	
113	武雄市立北方小学校	
佐賀県	114	嬉野市五町田小学校
	115	嬉野市立久間小学校
	116	嬉野市立塩田小学校
	117	嬉野市立嬉野小学校
	118	嬉野市立轟小学校
	119	嬉野市立大野原小学校
	120	嬉野市立吉田小学校
	121	嬉野市立大塚野小学校
	122	嬉野市立塩田中学校
	123	嬉野市立嬉野中学校
	124	嬉野市立大野原中学校
	125	嬉野市立吉田中学校
	126	嬉野市立神城小学校
127	神埼市立西郷小学校	
128	神埼市立青嶺小学校	
129	神埼市立千代田西部小学校	
130	神埼市立千代田中部小学校	
131	神埼市立千代田東部小学校	
132	神埼市立仁比山小学校	
133	神埼市立神城中学校	
134	神埼市立青嶺中学校	
135	神埼市立千代田中学校	
長崎県	136	対馬市立仁田小学校
熊本県	137	玉名市立玉名小学校
鹿児島県	138	南九州市立中福良小学校
	139	鹿児島県立川辺高等学校

※FVP:ふれあいボランティアパスポート

※○:ふれあいボランティアパスポートフレンド

教育委員会や学校が作成したオリジナルのふれあいボランティアパスポートを使用して参加している教育委員会や学校です。

※教育委員会

教育委員会として全小中学校に参加いただいています。

公益財団法人さわやか福祉財団委託事業 後援：日本教育新聞社

平成 26 年度ふれあいボランティア活動感想文集
平成 27 年 3 月発行

特定非営利活動法人さわやか青少年センター

〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-8 日本女子会館 7 階
特定非営利活動法人さわやか青少年センター分室

TEL : 03-6809-2795 FAX : 03-6809-2796

URL : <http://www.ssc-npo.or.jp> / E-mail : info@ssc-npo.or.jp